編輯室内外

三伏の暑さは何時しか坩堝の如き編輯室にも襲ひ來つて、執筆に編輯に校正にものうきこと甚しきを覺ゆる。而かも舊態依然として何の變哲もなき狀態と環境に馴されたる編輯子は支那の戰場に在る將兵の勞苦を偲び、影千尺に搖きて龍蛇動き聲半天に撼きて風雨寒しといふが如き間に逍遙するを羨まず、營々孜々として匆忙の間に身の健なるを樂しむものである、去りながら一度眼を窓外に轉じて時勢の加速度的變轉の狀を凝視するときうたた無量の感慨を禁ずる能はざるものがある、時勢の力よ汝は如何に强烈であるか汝の前進を阻止するもの何處にかある、財力か智力か學識か官權か傳統か經驗か將又武力か、あらず、唯其の弊害の生ずることを防止するに力を盡すの外はない。編輯子の微力は思ふに止まりて果を收むる能はず同感の士希くは茲に一段の高援を惜むことなからんことを。

帝都の庶政は全國都市に範を垂れなければならぬ、だが交通事業の調整は如何ぞや曰く市有市營論曰く半官半民會社案曰く公有民營案曰く鐵道省當局の理想案曰く東京市當局案曰く五島（慶太氏）案等々と豫想し難い難案である、今後特別委員會の動きは如何、市民の要求する所を把握せる委員ありやなしや、發送電會社の創立に比し當局者如何の感かある。

今年は二府三十七縣で府縣會選擧が執行せらるるが當局では徹底的に選擧の肅正を期するのである、公平であれ明朗であれ而して政黨人は自覺自肅せよと奬むる、其の執行期日は次の通りである。地方土木當局も警戒を要する。

▲京都九月廿五日▲大阪同上▲兵庫同上▲長崎同上▲新潟同上▲群馬同上▲茨城同上▲栃木同廿二日▲奈良同廿五日▲三重十月九日▲愛知九月廿五日▲靜岡十月十日▲山梨同六日▲滋賀九月廿三日▲岐阜同廿五日▲長野同廿七日▲宮城同廿五日▲福島同上▲岩手同廿四日▲青森同廿五日▲山形同上▲秋田同上▲福井同廿二日▲石川同廿四日▲富山同廿五日▲鳥取同廿一日▲岡山同廿六日▲廣島同廿五日▲山口十月五日▲和歌山同上▲德島同十日▲香川九月廿五日▲愛媛同上▲高知十月五日▲福岡九月廿二日▲大分同廿五日▲熊本十月五日▲宮崎九月廿五日▲鹿兒島同上

時代の反映は商工省の機構を變更せしめた、總務局、鑛產局、鐵鋼局、化學局、機械局、纖維局、監理局とさすがに科學省と名稱を付せらるゝも故なきことでない、技術者諸子よ名實相伴はしむるの卓見を主張せられては如何、東京市は局課の改稱に依つて市政の實績を擧げんことに着目したのか總務局、財務局、市民局、厚生局、經濟局、土木局、水道局、電氣局と巷間傳ふる所に依れば「市會人事を排擊した市長人事である」とさすがに「たのものき」市長なるかな。

長期戰下時局の推移進展に伴つて町村は國の事務愈よ〳〵繁劇を加ふるに至つて到底現狀に放任するを許されざる事情があるので内務省では町村吏員充實助成費二百萬圓（九ヶ月分給料）を交付して町村（國の機關として？）の機能を發揮せしむることとなつた。而して之れによつて增員せらるゝ町村吏員は六千八百二十三名に上るといふ、國の施設に狎れて自治の機能を閑却すること勿れと一言する。

天津英租界日本の手で鑵詰された隔絶策は彼の自業自得である、今更小細工的な外交術で帝國不動の對支策を破らんことは不可能である、もがけばもがく程恥の暴露となる、先づカー駐支大使を隱退せしめクレギー駐日大使を駐支たらしめよ、斯くて事件の解決は其の曙光を見るであらう。敢てチエンバレン首相とハリフアックス外相とに進言する。夫れにしても政友會本部のしめ出し事件は國辱でなくて何んであらう。

内閣統計局の發表によれば昭和十三年中の内地に於ける出生は百九十二萬八千五百六人、死亡は百二十五萬八千九百二人で差引人口の自然增加は六十六萬九千六百四人であると、人口減少の兆候やゝ現はれて來たと見るべきであらうか。（洸）

定價一部　五十錢
一ヶ年分　金六圓
東京市麴町區霞關一丁目内務省内
發行所　社團法人　道路改良會
電話銀座(57)四二七
東京市世田ケ谷區代田一丁目七八〇番
發行兼編輯者　小島效
東京市小石川區諏訪町五六
印刷所　常磐印刷所
印刷者　奈良直一